



図1 機内で準備されている酸素吸入器の箱。座席の上にあったり、下にあたり、アテンダントが持ってきたり、さまざまです。搭乗したらすぐ確認を！



図2 カバーを開けたところ 欧州便の多くはどの航空会社もこのスタイルのようです。



図3 この中央の数字が分時酸素流量を示しています。例えば1列目の1.2L/分であれば20時間、2列目の2 L/分であれば16.5時間継続使用可能なことを示しています。



図4 このラベルを引き抜かないと電源がはいりません！動かなくても故障していると思わないこと！またこれを抜いてしまうと使ったことになります。



図5 これを引き抜いて使用可能な状態になると説明しています。



図6 通常の地上では1000hPa(ヘクトパスカル)なのだが、機内では795hPaまで低下している(右の時計の気圧)。この時には健常人でも酸素飽和度が91%まで下がっていることに注意！



図7 この患者さんの場合はトイレから帰って来てここまで低下しています。